

平成30年度 藤が丘小学校重点研究 全体計画

1 研究主題

研究主題

ひびき合い、高め合い、できる喜びを得られる子どもの育成
～自分の考えを大切にし、伝えたいという気持ちを高め合える授業の工夫～

低学年テーマ	高学年テーマ
自分の考えをもち 思いのままに 表現することを楽しむ子	自分の考えをもち 効果的に 表現することを楽しむ子

2 研究主題設定の理由

昨年度までの図画工作科の研究では、「できる喜びを得られる子どもの育成」において、一定の成果を得られる結果となった。友達の作品を認め合い、楽しみながら活動を進め、多くの子どもたちが、満足のいく作品を生み出すことができた。

ただ、図画工作科のもつ特性は正解のない学習であり、共感的の支援の工夫を心がけることによって、多くのクラスで成果を得られた。この成果を他の教科でも得られることができないかと考え、今年度は、複数の教科において検証することを試みたい。また、図画工作科の学習の中でも、領域によっては、課題の残る部分もあるため、引き続きこれまでの研究主題のもと、教師一人ひとりの授業力を高め、子どもたちの輝きを引き出したい。

3 研究の内容

研究主題にある「ひびきあう」姿を、友達と積極的に関わり、互いの考えを認め合いながら自分の考えを伝えようとする姿ととらえた。図画工作科では、造形活動の中で「自分の考えをもち」ことは、様々なきっかけにより可能である。また、ちょっとした思いつきから活動を進めていくうちに考えが深まることもある。

他の教科ではどうか。既習の知識と新たな情報を生かして考え、伝え合いながら考えを深めていくことが多い。さらにその考えには、客観性を求められることによって、「自分の考え」を「伝えたい」という気持ちは、もちづらい子どもが存在する。ここに手立てを用いて、「ひびきあう」姿を見出したい。その手立ては、導入の場面にあるのか、活動を進めていく中で行われていくのか、また、振り返りをする上で効果を発揮するのか、それぞれの場面での教師の関わりを工夫し、子どもたちの変容を観察したい。

4 研究の方法

① 一つの单元の中で、

導入 — 展開 — まとめ の3つの授業を学年3人（個別は2人）の先生で公開する。その中の一つの授業には、講師を招き、指導案検討および研究講義を重点研授業研究会として行う。

②研究授業に至るまでには、授業者のみならず学年（ブロック）全体で、実技を伴う教材研究の

中で、具体の評価規準を設定した上で、指導案検討ならびに事前研を行い、授業に臨むようにする。

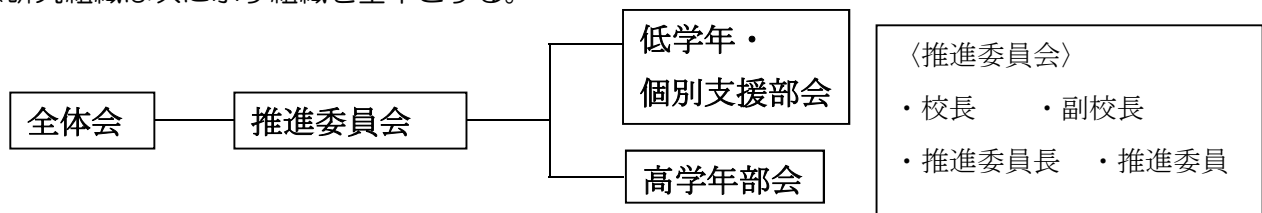
- ③ A部会（1・2・3学年・個別支援）、B部会（4・5・6学年）を設置し、部会ごとに指導案検討をする。

※指導案は事前に講師の先生に送るため、授業研究会の10日前までに作成し、講師の先生の数+3部（校長先生・副校長先生・松浦）印刷する。授業研究会では、2日前までに指導案を40部印刷し、配布する。

- ④ 研究を運営するための仕事は、学年に振り分けて行う。（責任者は、各学年の推進委員）

5 研究組織

※研究組織は次に示す組織を基本とする。



【全体会】

- ・研究の方向性について、全教職員で確認し、共通理解を図るとともに、研究の共有化を図る。
- ・授業研究会当日は、事前の部会指導案検討で課題となったことを全体化する。
また、講師の先生の紹介と全体的な指導講評を受ける。

【低・個別、高学年部会】

教材研究、指導案検討および実践事例研究を通して研究を深める。

【推進委員会】

重点研究がより深められるように企画・立案・運営をし、研究の推進を図る。また、部会の研究における諸種の成果や課題について検討し、全体会に提案することにより研究の共有化を推進する。

【推進委員長】

- ・全体計画作成
- ・重点研究推進委員会の運営、重点研究会（当日）の運営、講師の案内
- ・外部講師との連絡・調整
- ・授業内容についての助言、指導案の検討・取りまとめ（印刷・閉じ込み・配布の指示）
- ・研究会における討議の視点、進行、研修の内容の設定
- ・授業（図画工作）に関わること、授業者に対する相談、アドバイス
- ・講師に対するお願い（指導内容）の内容の検討、作成

録：ブロックで授業を伴わない学年